

令和4年度
第1回松江市上下水道事業
経営計画推進委員会

議 事 内 容
(概要)

令和4年度第1回松江市上下水道事業経営計画推進委員会

1. 日 時：令和4年8月27日（土） 14：00～16：00
2. 場 所：松江市上下水道局 忌部浄水場 研修棟
3. 出席者
 - （1）出席委員 水谷委員長、磯部副委員長、宮脇副委員長、
安部委員、伊藤委員、宇野委員、玉野井委員、前田委員
 - （2）欠席委員 片寄委員
 - （3）事務局 小塚上下水道局長、吉岡部長、中倉技監、杉谷次長、鍛冶次長、
古藤総務課長、古藤浄配水課長、田淵検査員、中西課長、中岡係長
4. 議事
 - （1）第1次松江市上下水道事業経営計画の進行管理について
 - （2）忌部浄水場耐震化工事の見学について

◇委員会の内容（概要）

○水谷委員長

どうもご丁寧に説明いただきまして、ありがとうございました。
それでは、委員の皆様方からご意見・ご質問等をお受けしたいと思います。
どなたからでも結構です。いかがでしょうか。
はい、お願いいたします。

○玉野井委員

松江市の事業運営については、円安による原材料費や燃料費の高騰など、想定外のこととは起こりましたが、全般的には計画に沿って順調に進んでいると感じました。

今後の課題については、県内の水道広域化だと考えています。松江市は、県東部圏域に入っていますが、今後、恐らく県から示される広域化のメリット・デメリットについて検討されると思いますが、広域化については、慎重に対応していただければと思っています。

○水谷委員長

ありがとうございます。

ただいまの玉野井委員のほうで、何か補足する回答がありましたらお願いします。

●事務局

ありがとうございます。広域化については我々も非常に重大事と考えています。松江市からすると、全県経営統合というのはあまりメリットがないと考えていますが、そういう狭い見方だけで良いのかという考え方もあります。

ただ、これは一水道事業者が考えることではなく、首長がその責任において決定すべきことだと思っていますが、県の計画そのものが、まだ入口論で終始をしており、実際にそれぞれの市町村が上下水道の供給が本当に可能なのかというところの厳しいところまで分析できていないという状況です。

私どもとしては、県内で一番大きな上下水道事業体ですので、メリットを出しながら、全県の上下水道事業ができるだけ適正で健全な方向で運営できるように議論に参加し、場合によっては県にも直談判するというようなことも踏まえて、議論の深化を促していきたいと考えています。

○水谷委員長

ありがとうございました。

ほかにございますか。

非常に広範囲にわたる内容に関しての進行管理の状況を説明いただいたとは思いますが、どんなことでも結構でございます。お願いいたします。

○宮脇副委員長

上水のほうは、特に人口減の市町村が一番困っています。松江市の人口は以前の基本計画では16万人、総務省では10万人をきってしまうとかだったと思いますが、現在の計画では確か2030年以降も18万5,000人くらいで固定したような人口計画ですから、それに合わせてウォーターサプライも動くと思います。

あと、全体としては、松江市はまだ良いのですが、周辺の市町は非常に縮小していますから、広域合併というのは起きると思います。それは国としてはやらなければい

けない施策なので、どこまでやるのか。境港と米子でも色々検討しています。もっと広域でやるようになることは私は避けられないと思います。

あと、どの企業もそうですが、やはり人がいないです。どういう事業も人がいなくてはできませんから。これは日本だけではなく、実は私、国防省の担当としてアメリカへ行ったのですが、中国が台湾侵攻を意外とできないのではないのかと。裏には、色々な防衛力だとか抵抗力以外に、正面装備が非常にハイテク化しているのです。しかし、ハイテクを使う若い兵士がいないということなのです。優秀な人材はバイドゥやテンセントやアリババなど給料が良いところに行ってしまう。優秀な人材の流出というのは現実には色々ところで起きているので、ぜひこの上下水道事業も次の若い人を採用して、以前も本庁一括採用をして回すとか、上下水道単独で採用するなどありましたけれども、いずれにしても若い人。また、この国は若者が就職して3年未満に47%ぐらいが辞めてしまいます。ですから、定着などをやっていかないと、どんなに事業計画がうまくいっても、人がいないとどうしようもないので、その辺りの採用と教育というのは、ぜひ力を入れてほしいと思います。

●事務局

ありがとうございます。人材は非常に大きな課題で、私はこの前の職が健康部長で介護事業所関係もやっていましたが、そこでも人材不足が問題でした。これは大きく言ってなぜか。汚い、人から評価されない、給料が安い、この3つです。

こういった土木建設業でも同じようなことが、給料が安いわけではないのですが、やはり汗をかかなければいけないなど、そのような職そのものを評価し直すという時期が来ているのではないかと思っています。

我々一事業体ではできないことだとは思いますが、やはり生活インフラを支えていく、それを維持していくということを業界の方々と一緒になってイメージアップ戦略が必要だと考えています。

また、上下水道局は研修等も非常に充実していますので、そういったことも十分PRしながら、できるだけ人材を確保しながら事業の継続性を担保していきたいと考えています。

○水谷委員長

ほかにいかがでしょうか。

はい、どうぞ。宇野委員。

○宇野委員

経営計画に結び付くようなマクロの問題ではなくて、質問なので断っておきますが、8万世帯ざっとですが、その中で有収水量に関係するのでしょうか、上下水道局で、住んでおられない世帯の把握等というのは可能なのでしょうか。

例えば、契約はしているけれど、年に数回、2回ぐらいの使用だったとすると、何かそういう方策というか、把握しているのでしたらご教示願いたい。

それともう1つですが、飯梨川水系から竹矢のポンプ場まで、ざっと14kmだったと記憶していますが、具体的に、管路の耐震化というのは、その後の補修や更新などで逆にデメリットも出てくるのではないか。いわゆる建物とは違う、何か耐震化の方法を教えていただければありがたいのですが。

●事務局

最初の質問の給水契約の件ですが、やはり空き家というか、家はあるけれども、人は住んでいないというところが非常に増えてきています。

例えば市外に住んでいて、年に数回松江に帰ってこられたときに、すぐ水が出ないといけないので、給水契約は残しておられるというケースがありますが、その場合、使わない時期も基本料金だけをお支払いしていただくことになります。使用量はないけれども給水契約をしている、いわゆる0トン調定が、全体で4,300件程度あり、そのうち一般世帯が3,500戸ぐらいあります。この対策が非常に大切なことだと思っています。

●事務局

空き家の数はかなりありますが、上下水道の契約を解除しているところがほとんどです。都会に出ているけれども、お盆のために帰ってくるから契約がずっと継続しているとか、一見空き家なのだけれども、正月と盆だけは人が入るとか、そのようなところが0トン調定で、実は基本料金はいただいているという状況です。

●事務局

先ほど宇野委員から、飯梨川水水道の今津浄水場から松江の竹矢ポンプ場まで大体 14km ほどの送水管の耐震化の方法についてご質問をいただいたかと思いますが、管路の耐震化の場合は、構造物と違って、構造物だと耐震補強などをして耐震化を図ることもあります。管路の場合は、耐震性を持った管に全線やりかえるということになります。

したがって、現在 14km の送水管が入っているルートなども、場合によっては狭くて、同じところには入れられないということになると、管を入れるルートも変えながらやり変えるということで耐震化を図っていくという方法をとっています。

○宇野委員

少しフレキシブルな感じになるのですか。

●事務局

そうです。大きく 2 通りありますが、管の継ぎ手の部分に伸縮性を持たせるものと、もう 1 つは、口径が小さいものになりますが、管全体で伸び縮みする特性のある管を使うことによって、耐震性を確保するという 2 つのやり方で耐震化を図っています。

○水谷委員長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

はい、前田委員。

○前田委員

質問ですが、資料 1 の水道事業の建設改良事業ということで、グラフが紹介してありますが、この中で企業債残高の推移を見てみると、平成 28 年から平成 29 年にかけて、86 億円から 185 億円と、約 100 億円増えているのですが、これは簡水を統合したことによって、簡水が抱えていた企業債も一緒に抱え込むということで、こういう数字になったということで理解して良いですか。

●事務局

はい。その通りです。

○前田委員

当然、それまで簡水の抱えていた借金を一緒に抱えていくということになるのですが、例えばそれぞれの簡水が抱えていた債権の利率、これはどれぐらいだったのですか。

●事務局

債権の利率については、概ね 4%以下のものが残っています。高い利率のものは繰上償還という形で、平成 21 年ぐらいにしていますので、今も 4%以下のものです。

○前田委員

まだ 4%台の債権は残っているのですか。

●事務局

数としてはそれほど多くないですが、やはり 4%のものもいくつか残っています。平成 4 年度の簡易水道債でも 4.4%、5 年で 3.6%ぐらいですが、これが 30 年償還としても、もうほとんど償還は終わりに近い状況です。

ただ、これについては、保証金なしの繰上償還をもう一度実施してほしいという要望は国のほうに挙げているところです。

○前田委員

要するに、既に発行した既発債は、やはり時代が遡るほど高い金利なので、そういった高い起債は積極的に前倒しで繰上償還をしていくということは当然なのですから、これから今の起債のレートはどれくらい、1%前後ですか。

●事務局

0.8%くらいです。

○前田委員

分かりました。金利の先行きはなかなか読めませんが、ずっとこれまで日本は政策的に低金利に抑えてきたわけですが、今、欧米の諸国でどんどん政策金利は上がっています。アメリカも EU も各国とも利上げに動いていて、それが長期債の発行権にも当然影響してきますので、その辺りの、これまでは政策的に非常に低い金利で、政策金利は 0%前後でずっと推移をしてきたわけですが、最近は金利の動きが変化をしてきて、これからは金利の上昇もある程度想定しながら、いわゆる金利管理、金利マネージメントの視点も必要になってくると思います。

●事務局

以前、水道事業も減債積立という形で起債対策をやっていましたが、現在はないのですけれども、おっしゃるとおり、そういった金利の動向も見越して、内部留保、水道は今 24 億ですが、それで良いのかどうかというところも、起債のことも含めて考えないといけないと思っています。

○水谷委員長

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

はい、磯部委員。

○磯部副委員長

今、委員の皆様方から色々なご意見があったので、私はそこを避けて、市民とのコミュニケーションについてお伺いします。

アンケート調査の結果で多くの市民から「料金が低い」というのが出てきていて、私も少しびっくりしました。県内での料金の構成では、松江市は中程度だったというように思っているのですが、なぜ低いという感想が多く出てきたのだろうかと思いました。どういう流れの聞き方でどういう回答になっているのか質問紙が見たいと分析が知りたいと思いました。

それから、今年度で縁の水が終了すると言われるのですが、マーケットなどに行くと、備蓄水を買っている人をよく見かけます。例えばこの夏でも、2 リットルぐらい

の 6 本入りのケースを 2 パックいっぺんに買って帰っている方などがいらっしゃいました。また、テレビなどで「お水をしっかり飲んで、熱中症にならないように」と言われていますが、それが水道水に結び付かなくて、そういったところに結び付いているのかなと思っています。

都市部の友人などに聞くと、2 リットルのペットボトルを買って置いておく場所をとるし、管理がなかなか大変なので、毎月自分の必要な分だけの水を持ってきてくれる民間のサービスをうけているが、あなたはやらなくて大丈夫か？と言われたのですが、私の住んでいるところでも廊下に置いてあったり、空パックが置いてあったりするのをよく見るので、松江にもそういうニーズがあるのだということを感じていたのですが、もう少し市民とコミュニケーションをとって、そういった面も十分に分かっていたいただけるようなアセットメントの手引きが必要ではないかと思っていますが、いかがですか。

●事務局

「なぜ料金が高いと思われるのか」というところですが、私もなぜだろうというのが正直なところですね。実際に県内の平均と比べても、松江市の場合、例えば 10 トンだと 1,580 円で、県内平均は 1,700 円で、全国平均では 1,500 円。ほとんど全国平均程度の料金なわけで、これをいかに分かっていただけるかというような広報活動をやっていかなければいけないと思っています。

昭和 50 年代に料金が 6 倍程度まで上がってきたという時代を通られた方には、どうしても松江の水道というのは高いという意識が非常にあるのかなと。その当時、県庁所在地で 2 番目に高い料金だということが全国的に松江の名前が出たわけですし、これがずっと意識の中に入っているのと、公共料金と色々な電気料金も含めて電話料金などの価値観というか、高い安いの感覚というところに水道と下水道というのがどうしても高く感じられてしまっているのかなという部分が否めない。

それから、上水と下水道が両方合わさって請求されるというのも 1 つの要因かなと感じています。

●事務局

ご質問ありがとうございます。確かに聞き方とか、どのようにして水道の料金であ

るとか、メカニズムであるとか、そういったものをご理解いただけるのかという非常に難しい点でして、我々が今考えているのは、我々のホームページや情報発信の仕方が、こちらサイドからお伝えしたいことをメインにしてホームページなども構成しています。

ただ、市民のみなさんが何か調べるときに、自分が困ったことを調べるわけです。そういったことをメインにしながら、まずは我々の発信している情報に目を通していただけるような情報発信の仕方にチェンジしていかないと、今、行政が言われていることなのですが、自分たちがこういうことをやりましたから見てくださいではなくて、上下水道はなぜ水道が高いのかとか、凍結したときにどうすれば良いのかとか、下水道がつまりましたけれども、どうしましょうかみたいな情報がまず前面に出ることによって、そこを入り口にして、どんどん奥に入っていけるような情報発信の仕方。

それから、コロナ禍でなかなかできませんが、浄水場も小学生に来ていただいて、水をつくるシステムなどを勉強していただいたという実績もありますので、コロナが終わりましたら、できるだけそういう機会や現場に出る機会を多く持たせていただきながら、なかなか市民のみなさんにとって、1円でも安いほうが良いわけですので、分かりましたというような程度まで理解を深めていただくような方策をとっていきたいと考えています。

○水谷委員長

もう1問の質問ペットボトルの備蓄についてお願いします。

●事務局

ペットボトルについては、私ども、縁の水をやめたという経緯については、ペットボトル自体がプラスチック製品ですので、マイクロプラスチックとして海洋汚染にもつながるということで、行政体としてそういったものを積極的に推進するのはやめようということです。ただ、その代わりに、災害時の給水タンクや給水スポットなどを用意して、災害時に対応できるようにするというをやっています。

それから、水を備蓄されるということですが、ペットボトルの水などは消費期限があります、汲み置きの水などをご使用いただくというのはあまり好ましくないのではないかと考えています。

私どもも先ほど言ったように、災害時には全国の水道事業体から応援もありますし、それから耐震化なども進めています。できるだけ被害が少ないような形で、市民生活を正常に戻していく期間をできるだけ短縮していくということも踏まえた対策をとっています。

最近健康志向ということで大きなタンクを配達されるような民間のサービスもありますが、松江の水は緩速ろ過でつくった非常においしいお水ですので、そういったことを PR しながら、我々もほかの商売の邪魔をするということとはできませんが、水道水の安全性を確保しながら PR をしていきたいと考えています。

○水谷委員長

はい、伊藤委員。

○伊藤委員

私は大野町に住まいをしまして、今お話がありました旧簡易水道の地域です。旧簡易水道が統合するときに、負の財産をたくさん持って統合したわけですが、この数字を見ながら、色々といつも心が何か痛むような気がしています。けれども、今、料金のことも出ましたが、私たちは山の中で隣に行くのにも車で行くような地域に住んでいても、市街地にお住まいの方と同じ水道料金でお水を使わせていただいているということをお大変感謝をしているところです。

これまでも国の各省庁に要望され、3 年度は地方財政措置の拡充、4 年度は厚労省で交付金の要件緩和が措置されたということで、引き続き旧簡易水道の財政支援は、局長をはじめ、みなさんをお願いをして、なるべく負の財産の簡易水道の部分が少なくなることを願っています。

それから、もう 1 つ主婦の目線から、今、電気料金などもすごく上がっています。また、ウクライナとロシアとの戦争の関係もあり、食料品も大変な値上がりをしていて、主婦などは買いものに来ても本当に驚くことが多いです。水道料金の口座引き落としなど、そういったことへの影響はありませんか。

●事務局

決して簡易水道が負の遺産だということではありません。同じ行政区域内に住んで

いる住民は、等しく同じコストで同一のサービスを受ける、そのための行政、そのための直営の上水道・下水道事業ですので、それは東京と松江の関係も同じことで、結局、東京の人が田舎の者を捕まえてああだこうだと言っているのと同じことになります。私どもはそのようなことではなくて、当然最低限の必要な生活インフラですので、当然、同一の料金でやっていくと。

そのためにも、確かにコスト的に不採算の部分がありますので、やはり国に最低の文化的な生活を営む重要インフラということで、引き続き日水協等と一緒にあって要望を積み重ねていきたいと考えています。

口座振替での収納率そのものについては、大きな影響は受けていないという現状です。ただ、先ほど言ったように、非常に上下水道料金がそう簡単に上げにくくなっているような局面になってきたということは言えるのではないかと思います。ただ、私どもとしては、一定の事業量を地元の事業者に落とすことによって、人材の確保であるとか、災害に備えた、いわゆるそういった体質づくりというものの一助にもなると思っていますので、その辺りのところは生活への影響と地元の経済への影響のバランスを考えながら、先ほどの金利の影響というのもございますけれども、一定程度建設改良を落としながら、なるべく料金を上げない方向でがんばっていききたいと考えています。

○水谷委員長

ほかに。

はい、どうぞ。

○安部委員

すいません、2点ほどお聞かせ願えればと思います。

1点目は、下水道の接続勧奨のところ、いまだ接続されていない世帯がかなりあるということで、やはりこれが増えていけば、下水の収益も上がっていくというところで、非常に今後への期待が高まるころだと思いますが、未接続のところの特徴的なもの。例えば、高齢化世帯、1人暮らしの人のところが多いとか、あるいは地区的なところで、この辺りの地区は非常に未接続のほうが多いとか、そういう特徴というものがありましたら、お聞かせ願えればと思います。

それによって、それに対する対策みたいなのところも、地域であればそこへ出向いて行くということもあるでしょうし、高齢者の方であれば、なかなか理解が得られないと思いますので、周りの人たちのご協力等も必要になってくるかなと思っています。

もう1点は、支払い方法で、今、スマートフォン、アプリを使っただけの支払いが多に多いです。実は、私どもも、いまだクレジット等を使用できない状況ですが、PayPayだけ使えるようにしました。当初は、果たしてこれの利用がどれぐらいあるのかなと思いましたが、PayPayの利用者というのは本当に年齢関係なく幅広く、1ヵ月に、私どもの売り上げでも20万近くの売り上げがPayPay使用という現状があります。

現在、ここに3つのアプリが書かれていますが、これらが選択された経緯などをお尋ねします。

●事務局

まず、下水道の普及について説明させていただきます。下水道の普及というのは、下水道管につないで、各家庭のトイレなどのし尿と汚水をどのように処理していくかということなのですが、松江は非常に都市部と田舎の部分があるので、まず、地域で家が1戸ポツンとあるところというのは、最近浄化槽の性能が大変良くなっており、ます合併浄化槽でやっていただくと。都市部の中にあるのに、下水道の恩恵を預かっていないご家庭があるというのが問題かと思っています。

その中で、2点課題があると思います。まず、下水道が普及していない。要は、その家に下水道管がいていないというご家庭があります。その主な理由としては、下水道をつなごうにも、つなぐ土地自体が、道路等がある程度、所有者等の関係で、公共工事が設定できずに住んでいるご家庭が、まだ浄化槽が残っているというようなところがあります。

そういうところは、ポイントポイントで各自治会に入って接続促進事業という形で、市役所と連携して、また地元の方と一緒に、話し合いをしながら、解決していき、一つひとつその地域に対して下水道を普及させていただくという事業を今取り組んでいます。

もう1点は、下水道は普及しているけれども、接続をしていただけないご家庭があるというのは、実際松江市は普及率が98%で、接続率が93%ということで、両方とも全国平均から見ると非常に高い数値を持っているのですが、まだなかなかつないでい

ただけないというお話は、逆に言うと、先ほど委員のほうからご説明あったように、空き家があったり、要は家があるのだけれども住んでおられなくて、生活していないので下水道をつないでいないといった部分をどのように統計をとっていくかという話と、あと、同じように高齢化に伴って、経済的に下水をつなぐというのは100万円程度以上の資金があるので、なかなかおばあちゃん1人が住んでいるのに、「自分だけでこの家は終わるよ」というところに接続勧奨で「つないでください」というのはなかなか心苦しいところが高齢化のまちではあるというのが現実ではないかなと思っています。

●事務局

接続勧奨については、やはり高齢世帯や家屋が非常に老朽化しているというところはなかなか難しい部分があるかと思いますが、経済的な部分については融資の制度であるとか、浄化槽も管理に当然お金がかかりますので、「下水道につないで、下水道使用料と比べたらこうなりますよ」という提案も含めて接続勧奨はやっていきたいと思っています。

それから、電子決済については、以前からコンビニ収納はやっていましたが、コンビニ収納を取り扱っている会社がLINEPayとか、PayB、といったものをコンビニ収納と同等のサービスで開始した関係がありまして、上下水道局も料金にこの決済制度を導入したところです。

まだクレジット決済には至っておりませんが、できるだけ口座振替を推奨するという意味も含めて、可能な限り選択肢を広げる努力はしていきたいと考えています。

○水谷委員長

ほかにございますか。

……………質問・意見なし……………

それでは、(1) 松江市上下水道事業経営計画の進行管理については以上としたいと思います。

なお、委員会が終了したあとでも、何か追加質問・意見等がありましたら、事務局のほうまでご連絡いただきたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、次回の委員会の日程についてです。次回の開催は、事務局のほうで日程

調整をしていただく予定です。日程が決まりましたら、事務局から委員の皆様方にご案内を差し上げたいと思います。大体いつごろですか。

●事務局

今のところ、2月から3月の年度内にと考えています。

○水谷委員長

それでは、そのころになりますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、(1) 第1次松江市上下水道事業計画の進行管理の件と、次回の日程調整の件は終わりにしたいと思います。